

(公印省略)
三市史第52号
令和7年2月1日

各 区 長 様

三木市市史編さん室
室長 清原 久美子

『市史編さんだより』の回覧について（依頼）

晩冬の候、皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は、本市の市史編さん事業に格別のご理解とご協力を賜り厚く
お礼申し上げます。

このたび、『市史編さんだより』第17号を発行いたしました。
つきましては、ご多用中とは存じますが、貴自治会の皆様にご回覧
いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】)

総務部市史編さん室 担当：廣井、清原
〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4番5号
三木市立みき歴史資料館2階 市史編さん室
電話(0794) 83-1120 Fax (0794) 83-1190
E-Mail:shishihensan@city.miki.lg.jp

(回覽杵)

[illegible]

市史編さんだより 第17号

発行 令和6年12月27日

シンポジウム「地域の歴史を次世代へ」を開催しました



- 写真① シンポジウム会場の様子
写真② 仲田一彦市長によるあいさつ
写真③ パネル展示「市史編さん事業10年のあゆみ」
写真④ 市史販売ブース
写真⑤ パネルディスカッション登壇者（左から奥村弘氏、大国正美氏、市沢哲氏、前田徹氏、田中隆次氏、西田博之氏）

11月10日（日）午後1時から市立中央公民館大ホールで、市史編さん事業10年を記念したシンポジウム「地域の歴史を次世代へ」を開催しました。

市長挨拶の後、三木市史編さん委員会副委員長である奥村弘氏による趣旨説明がありました。地域の歴史や記憶を地域の中で次世代に伝えることが大切であり、それこそが市史の仕事である。そのために「地域編」は絶対に必要であり、新三木市史は、新しい市史の形として、市民が主役となって作る「地域編」と専門性の高い「通史編」で構成されている、というお話でした。

趣旨説明の後、神戸深江生活文化史料館の館長である大国正美氏による「未来に伝えたい『わが街の歴史』～地域史編纂が生んだ“お宝”～」と題した記念講演が行われ、三木の地名の変遷や領主支配の遷移、交通や舟運などの歴史も交えながら、地域史編さんの意義

やおもしろさについて話していただきました。

続いて、市史編さん事業の報告として、市史編さん委員であり中世史部会長として通史編の編さんに携わった市沢哲氏から編さんの工夫や資料編の読み方などをお話いただき、同じく中世史部会の前田徹氏からは編さん過程で調査した多くの資料について紹介していただきました。また、地域編に携わった志染部会長の田中隆次氏、青山部会長の西田博之氏からは、部会が始まったときの気持ち、活動の様子、そして刊行後の活用や期待などについて報告していただきました。

そのあと、コーディネーターの奥村氏をはじめとする6名によるパネルディスカッションを行いました。

会場では、要約筆記と手話通訳も行い、障害のある方だけでなく、高齢で声が聞き取りにくい方からも「分かりやすくて助かった」との声がありました。（清原）

《市史の窓》しるやまばし 城山橋たもとにあったタワー

城山橋は、美囊川に架かる橋の一つで、中央公民館の近くにある橋です。昭和18年(1943)3月に建てられ、その当初は、北半分が木造で南半分がコンクリート造でした。竣工後の昭和20年10月の集中豪雨による美囊川の氾濫により、上津橋とともに流失し、その後再建されます。『東播新聞』(昭和33年3月15日付)によると、城山橋は「腐朽甚だしく、



写真1 昭和30年頃の城山橋(川を拡幅したため、北側(写真右側)にさらにコンクリート造の橋が付属している)

ちよつとの出水で通行止めになるいわくつきのもの」であったとされていますが、昭和33年に現在の鉄筋コンクリート造の橋となりました。

城山橋ができる前、この辺りには現在の中央公民館と商工会議所にまたがって三樹小学校が建っていました。同校は昭和12年に現在の地(末広1丁目)に移転しましたが、その当時はまだ城山橋ができておらず、生徒たちは川の浅瀬を渡って椅子や机を運んだといひます(コタニマサオ『なんでもかんでも三木 PART II』神戸新聞事業社、1988年)。その後、橋をつくる気運が高まり、城山橋が架けられました。



写真2 タワーの様子(提供:兵庫県立工業技術センター)

三樹小学校が移転した後に、その跡地利用のなかで、現在の県道20号にあたる道路が整備され、昭和34年には、新しく市役所庁舎(現在の庁舎の前身)が建てられました。

さて、この城山橋の南詰西側(現在の中央公民館側)には、かつてタワーが立っていました(写真1の左側にわずかに見えます)。

そのタワーを撮した写真をみると「金物の三木」の文字の上に菱型の装飾、そしてその上には輪のような飾りが据えられています。昭和30年頃広告塔として建てられ、始

めはネオンであったとされています(『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 三木』国書刊行会、1981年)。

このタワーがあったことについては人を介して当室へと伝えられました。寄せられた情報では、「神戸ポートタワー」を模したものではないかということでした。しかしながら、神戸ポ



写真3 神戸タワー

ートタワーは、神戸港開港90周年を祝う事業として計画され、昭和38年(1963)11月に完成したことがわかっており、年代があいまいです。そこでさらに調べていくと、かつて新開地に「神戸タワー」(新開地タワー、湊川公園タワー、と表記しているものもあり)なるものがあったことがわかりました。この神戸タワーは、大正13年(1924)に建てられたもので、その高さは90メートルあり、タワー上部には展望台が作られていました。「東洋一」との呼び声があり、晴れた日には、遠く紀淡海峡まで見えたといひます。その当時浅草にあった^{りょううんかく}凌雲閣、大阪にあった通天閣(初代)とともに高層建築として知られていました(なお、その後の調査で、神戸タワーの本来の高さは57メートルほどであったことがわかっています)。広告塔としても機能し、「ハーブ洗濯石鹸」「特急大阪行阪神電車」などの広告が付けられていました。神戸空襲も乗り越えましたが、戦後は老朽化して、昭和43年に取り壊されました。いまは湊川公園(神戸市兵庫区)内の跡地に時計塔が建てられています。

城山橋のたもとにあったタワーが、神戸タワーを模したかどうかについて、明らかにできる資料はありませんが、今回は、市民の方から寄せられた思い出をヒントとして、城山橋のたもとにあったタワーについて考える機会をもつことができました。

ちなみに、城山橋に前後して、美囊川にはいくつかの橋が架かっており、川と橋がおりなす風景は、見応えのあるものとなっています。(『三木の歴史』第5章第3節4を参照のこと)

他にも何か気になることがありましたら、またぜひ当室まで情報をお寄せください。(関山)

市史編さん室が行う「調査」とは？～民俗調査 その3

民俗調査はみなさんが生活の中での体験したことや記憶に残っていることを教えていただき、記録することです。その2では行事などの調査の上で何に注意しながら調査をおこなっているかを簡単にご紹介させていただきました。

現在、市史編さん室では『新三木市史 地域編 5 細川の歴史』の刊行に向けて主に細川地区の調査を行っており、地域のみなさまにご協力をいただいております。今回は民俗調査の聞き取りに関して、どのように行っているか、どのようなことに注目しているのかをご紹介します。

* * *

聞き取りは何を知りたいのかということが一番大切です。知りたいことがきちんと定まっていなければ、どなたにお話をうかがえばいいのかわからないからです。



写真 聞き取りの様子（令和3年5月蓮花寺調査）

聞き取りしたい内容が決まると、地域の方や部会員（編さん事業をお手伝いいただいている方）から「このことなら〇〇さんが詳しいよ」と教えていただきます。そして、詳しい方（体験したことがある・記憶している方）を紹介してもらいます。こちらの聞く側の準備としては、聞きたいことをしっかり引き出せる質問を用意し、聞くことをまとめておきます。また、相手にも簡単に今回はこのような話を聞かせていただく予定ですとお伝えをします。

聞き取りは用意している質問を基に、その時の話の方向から考えて、進めています。お話された内容がいつのことなのか、それはいつごろまでの話なのか、それは事実と異なっていないかなどを確認しつつ、お話を聞かせていただいています。聞き取った内容が正確なものというのはもちろんですが、話し手がその当時に体験したり、感じたりしたことがなるべくそのまま



写真 聞き取りのメモ（令和3年5月蓮花寺調査）

伝わるようにと心がけて聞き取り、記録しています。

他にもなるべく話し手のリズムや話の流れを崩さないように、また長時間の聞き取りにならないようにしています。メモや会話などを録音させていただき、後で確認ができるようにしています。それでもままとめると、聞き取り内容が足りないことがあります。話し手の負担にならないように、後日改めてお話を伺わせていただくこともあります。

お話をされていると、その当時の記憶がよみがえってくるのか、いろいろな話になり、本筋と違った話になることもあります。その雑談の中にも大切なことが詰まっていることが多くあります。うまく話せないなどと言わずに気軽にいろいろな話をお聞かせください。



写真 聞き取りの様子（令和6年9月細川町調査）

一人一人が体験すること、記憶していることは限られています。ご自身が体験・記憶したことをお話していただくことで、他の人と共有することができ、さらにそれを記録することで形として残り、次世代へ伝わっていきます。

これからも市史編さんの調査にご協力をお願いいたします。
(中谷)

編さん室トピックアップ

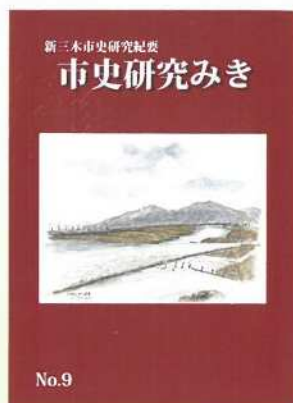
みき歴史資料館企画展「地域の歴史を次世代へ」の開催

令和6年10月19日（土）から12月22日（日）まで、みき歴史資料館において企画展「地域の歴史を次世代へ——どこにでもあるけど、そこにしかないもの——」を開催しました。本展は、三木市制施行70周年および市史編さん事業10年を記念し、あらためて地域の歴史を編さんする意味を考え、次世代へ地域歴史遺産を継承する意義を市民の皆様と共有するために企画しました。江戸時代の天文図や、市内自治会所蔵の区有文書の数々、大峯講の用具一式などのモノ資料、江戸將軍家が発給した領知朱印状の原本など、市史編さん過程で見いだされた市内の貴重な歴史資料から38点を選び展示しました。また、関連イベントとして、11月23日（土・祝）に富田良雄氏によるギャラリートーク「三木市に伝わる巨大な天文図」、12月7日（土）に宮田逸民氏で案内によるウォーキング「六ヶ井堰をたどろう」を開催しました。

研究紀要「市史研究みき」第9号の発行

令和6年11月30日付で、研究紀要『市史研究みき』第9号を発行しました。本号では、大正から平成まで活動していた口吉川町婦人会が、1958年から年刊発行していた機関誌『もんぺ』（全47号）の足跡をたどり、農村部女性の考えや取り組み、生活実感について論じた吉田隼人氏の論考をはじめ、近年、市指定文化財となって注目されている染型紙が、日本美術史において長らくその芸術性が評価されず、調査・研究が遅

れてきた事情を探った小澤みのり氏の論考、旧北谷村出身で、田山花袋の代表作『蒲団』の登場人物のモデルとされる永代静雄の生涯をたどった藤田均氏の研究、徳川將軍家が美濃郡内の寺社に発給した領知朱印状についてまとめた木村修二氏の史料紹介などを掲載しました。研究紀要は、みき歴史資料館や三木市史編さん室などで販売しています（頒価500円）。詳しくは市史編さん室まで。



新三木市史 既刊分も好評発売中！！

新三木市史は、既刊分（通史編2冊、地域編7冊）が好評販売中です。市史編さん室（郵送対応もしています）、みき歴史資料館、三木市観光協会、山田錦の館、市役所内福祉コンビニたんぽぽ、三木市立中央図書館、別所公民館（『別所の歴史』のみ）で販売しています。

お問い合わせは、市史編さん室まで（連絡先は、下記奥付をご参照ください）。

〈既刊分〉

通史編

第4巻 資料編 古代・中世 ￥3800

第5巻 資料編 近世 ￥3800

地域編

1『三木の歴史』 ￥3800

3『別所の歴史』 ￥3000

4『志染の歴史』 ￥3000

6『口吉川の歴史』 ￥3000

7『緑が丘の歴史』 ￥2500

9『青山の歴史』 ￥2500

10『吉川の歴史』 ￥3500

（いずれも税込み）

古い資料や写真を探しています！

皆さんのお近くにある古い記録類は、地域の歴史を物語る大切な歴史遺産です。下記のような資料の情報をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご一報ください！

◆くずし字で書かれた帳面や一枚ものの文書などの古文書◆明治・大正・昭和の古いノートや記録（日記・手紙など）◆三木市域の古い写真、絵画、映像など◆自治会などの団体、地域でのグループ活動などの記録や資料◆古いふすまや屏風（古文書が、下張りに使われていることがよくあります）etc.

市民ボランティア募集中！

市史編さん室では、市内の文献資料を記録に残す作業を行う市民ボランティアを募集しています。古文書が読めない方でも参加可能です。見学だけでも大歓迎です。詳しくは市史編さん室までご連絡ください。

◆開催日時：毎週水・木曜（どちらか1日の参加でもOK）13:00～15:00／場所：みき歴史資料館2階市史編さん室

活動内容：①古文書のデジタル撮影、②江戸時代以降のくずし字解読（翻刻作成）、③資料の修復（しわのぼし・糊づけ等）、④新聞検索（各紙から三木に関する記事を選別）、⑤古文書現物からの目録作成、⑥パソコンでの目録データ入力

市史編さんだより 第17号（令和6年12月27日発行）

編集発行：三木市総務部 市史編さん室

連絡先：〒673-0432 兵庫県三木市上の丸町4-5 みき歴史資料館2階 電話 0794-83-1120 / FAX 0794-83-1190

ホームページURL：https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/9/